

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成29年3月15日
No. 109

今年1年間を振り返って

「ハートフルデー」とは、年10回、月の中旬の水曜日に人権委員が交替で担当し、人権委員が自ら選定している人権に関する話題を朝のSHRの時間に4～5分程度全校放送すると共に、プリントの配布を行っています。今年は、5月11日水曜日の第1回目（通算第100回）から始まって、今回で今年10回目（通算第109回）となります。今回は、今年の「ハートフルデー」を振り返ることにしました。

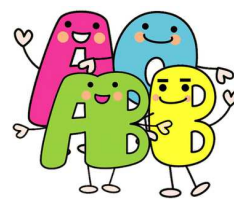


第1回（5月11日）は、6月2日に行われた「人権コンサート」の紹介等でした。人権コンサートは、福島県いわき市出身の二人組みのアーティスト「HILL STONE（ヒルストーン）」のトーク&ライブで、公演名は『HILL STONE 音楽の力～みんなで繋げよう明日へ！！』でした。二人は東日本大震災を経験し、被災者の皆様を歌で励ましたいという思いで今も活動されています。また、東日本大震災から5年が経った被災地の復興と現状、今年4月に発生した熊本地震の現状を調べたものでした。

第2回（6月15日）は、「人権コンサート」の感想の紹介でした。盛り上がりたり、涙を流すシーンがあったりと、心に残るコンサートでした。時間が経過するにつれて震災について考える機会が減ってきているので、改めて「人と人との絆」や「命の大切さ」という人権意識や防災意識を持つことが重要だと思いました。感想の一つを紹介します。

「歌や話を聞いて、音楽にはみんなを笑顔にする力があるということを知り、音楽はすごいなと思いました。今回、津波や地震の恐ろしさ、命の大切さを改めて知ることができ、明日が来るのは当たり前だと思っているけれど、明日が普通に来るのは幸せなことだと思いました。」

第3回（7月14日）は、「自分の人権感覚を見直してみよう」というもので、特に「決めつけ」に対するものでした。「なぜ、男なのに、私をもっと守ってくれないの？」「なぜ、女の子なのに、料理を作れないの？」というように、自分の中に「決めつけ」が存在しないかを常に意識して、「自分の大切さ」だけではなく「他の人の大切さ」を認められるような人権感覚を高めていこうといった内容でした。



第4回（9月21日）は、7月27日に参加した「松山盲学校オープンスクール」の内容と感想の紹介でした。ガイドヘルプや視覚障害者スポーツであるフロアバレーボールの体験を通して、目の不自由な方を感じている不安感や大変さを身にしみて感じる事ができたようです。皆さんも、街で困っている方を見かけたら、積極的に声を掛けて下さい。



第5回（10月19日）は、「ユニバーサルデザイン」について紹介したものでした。ユニバーサルデザインは、障がいの有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず多様な人々が気持ちよく使えるようにあらかじめ都市や生活環境を計画する考え方のことです。みなさんも、身の回りの「すべての人に使いやすい」ユニバーサルデザインを探してみてくださいという内容でした。



第6回（11月16日）は、「ともに生きる」というテーマで、いじめについて考える内容でした。「いじめ」とは、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものです。「いじっているだけだ」とか「冗談だ」と言っても、されている側が「嫌だ」と感じていれば、それはいじめになります。また、傍観者も、被害者側から見ると加害者の一員です。いじめは絶対に許さないという強い気持ちで学校生活を送りましょう。

第7回（12月14日）は、12月の人権に関する行事について紹介したものでした。12月3日の「国際障がい者デー」は、国民の間に広く障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がいを持つ人が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。12月10日の「世界人権デー」は、世界人権宣言の趣旨及びその重要性を広く訴えかけるとともに、人権尊重思想を普及させることを目的としています。人権に関する「〇〇デー」は意外とたくさんあります。まずはそれらを知ることが、人権について考える第一歩になります。

第8回（1月18日）は、12月17日に参加した「いじめSTOP愛顔の子どもフォーラム」の中で配布された川之江高校の生徒が作ったハンドブックを紹介したものでした。いじめは、ちょっとしたきっかけで起きてしまう。それなら、ちょっとした行動で、いじめのない毎日が作れるんじゃないか。そういう考えの中から、「いじめをなくすためのわたしの一歩」が集められました。みなさんも、あなたにできる一歩を考えて見ましょう。



第9回（2月15日）は、元ハンセン病患者さんの人権を考えることで、「正しい知識を身に付けることの大切さ」を確認するものでした。ハンセン病に関する人権問題が起こった原因の1つは、「この病気に対して、人々が無知であった」ということです。人々は何も知らないまま、誤った情報は正されることなく、人権侵害が長い間続きました。「知らないということが、いかにおそろしいか」「正しい知識がなければ、偏見や差別で人を傷つけてしまう危険性がある」ということになります。何が正しい情報なのかを、自分自身で十分に確認した上で行動する姿勢が、人権問題解決の糸口となっていくと思います。

以上のように、人権に関する話題を提供することで家庭での話題となり、皆さんの人権に対する意識も高まったのではないのでしょうか。今年度の放送は、今回でおしまいです。来年度もお楽しみに。

担当：池田 星華・岡村 凜・岩市 令・橋田 雅

さよなら、さよなら、さよなら…